

環境測定分析士2級試験  
共通問題（四肢択一式）  
問題の解答と解説



**環境測定分析士 2 級試験 共通問題（四肢択一式）**  
**問題の解答と解説**

- 問 1. 水質汚濁防止法で規定する公共用水域の水ではないものは、次のうちどれか。
- a. 港湾水
  - b. 地下水
  - c. 河川水
  - d. 湖沼水

**設問の意図：**水質汚濁防止法に規定する公共用水域の定義についての理解を問う。

**解説：**水質汚濁防止法は、公共用水域及び地下水の水質の汚濁の防止を目的としている。公共用水域とは、河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域及びこれに接続する公共溝渠（こうきょ）、かんがい用水路その他公共の用に供される水路（下水道法第 2 条第 3 号及び第 4 号に規定する公共下水道及び流域下水道であって、同条第 6 号に規定する終末処理場を設置しているもの（その流域下水道に接続する公共下水道を含む。）を除く。）とあり、地下水は公共用水域の水に含まれない。

**解答：**b

環境測定分析士2級試験  
選択問題（記述式）  
問題の解答と解説



# 環境測定分析士 2 級試験 選択問題（記述式）

## 問題の解答と解説

### < 全分野共通 >

問 C-1. 水質汚濁に係る (1)要監視項目 と (2)要調査項目 について、環境基準に対してどのように位置付けられる項目であるか、指針値の有無及び物質（群）の例を示し、記述しなさい。

設問の意図：環境基準項目，要監視項目及び要調査項目の関係についての理解を問う。

解説：

(1) 要監視項目：

- ・位置付け及び指針値の有無：公共用水域等における検出状況等からみて，現時点では直ちに環境基準とせず，引き続き知見の集積に努めるべきと判断された物質（群）である。各項目の指針値が示されている。
- ・物質（群）の例：クロロホルム，モリブデン，ウラン，PFOS 及び PFOA などである。

(2) 要調査項目：

- ・位置付け及び指針値の有無：個別物質ごとの水環境リスクは比較的大きくない，又は不明であるが，環境中での検出状況や複合影響等の観点からみて，「水環境リスク」に関する知見の集積が必要な物質（群）である。各項目の指針値は示されていない。
- ・物質（群）の例：亜塩素酸塩及びその塩，アクリルアミド，過酸化水素，硫化水素，PFHxS などである。

参考：

- ・環境省：「環境基準項目，要監視項目，要調査項目に係る水質調査について」，[https://www.env.go.jp/council/content/i\\_07/900430023.pdf](https://www.env.go.jp/council/content/i_07/900430023.pdf)

環境測定分析士 1 級試験  
選択問題（記述式）  
問題の解答と解説

# 環境測定分析士 1 級試験 選択問題（記述式）

## 問題の解答と解説

### < 全分野共通 >

問 C-1. 環境測定分析業務（大気，水質等）の受託に関して，分析業務を実施する技術者として，精度管理を確保する上で，準備，整備しておくべき具体的事項について，詳しく記述しなさい。

設問の意図：分析業務受託時の精度管理に係る準備事項の理解を問う。

解説：

(1) 業務の計画及び実施：

- ・実施体制の整備：対象とする媒体・測定項目毎の測定方法，使用機器の名称，検出下限値，定量下限値の整理，実施スケジュールの作成
- ・試験室及び機器の整備状況と配置図等の整備
- ・標準作業手順書の整備  
試料採取及び保存，試料の前処理，測定項目，試料の取扱（輸送，保管，識別を含む），機器の保守管理，試薬・標準物質の管理，記録，品質管理，文書管理，記録の管理，分析結果の品質保証等文書や管理規定の整備
- ・分析結果の妥当性の確認方法及び体制
- ・異常値への対処方法

(2) 内部精度管理の実施方法：

- ・操作ブランク試験，トラベルブランク試験，標準液等のファクターの確認，検量線の確認，回収率，検出下限値，定量下限値，生データのチェック等

(3) 外部精度管理への参加と結果評価：

- ・環境測定分析統一精度管理調査，技能試験，委託元の実施する外部精度管理調査等への参加

(4) 技術力の維持向上：

- ・環境測定に係る研修の受講，環境測定分析士，環境計量士，技術士資格の取得等

参考：

- ・「環境測定分析を外部に委託する場合における精度管理に関するマニュアル」（環境省 水・大気環境局 総務課 環境管理技術室，平成 22 年）